2017年秋の大会

福島特別プロジェクトセッション

新たな局面を迎えている福島の復興
The Reconstruction in Fukushima Facing a New Phase

（2）地元と寄り添う福島特別プロジェクトの活動

(2) Activities of Fukushima Support Project getting close to communities

*布目　礼子
日本原子力学会福島特別プロジェクト

1. はじめに

「福島特別プロジェクト」は、前報で記したように、地元にとって切実かつ喫緊の課題である周辺環境の除染作業や放射線影響への不安などに対してサポートや助言を行うなどの地元に役立つ活動を目指してきた。

福島特別プロジェクトの幅広い活動のうち、地元と寄り添うコミュニケーション活動を紹介するとともに、今後の活動の方向性を考えるための課題についてまとめる。

2. これまでの活動

①対話フォーラム

福島特別プロジェクト設立当初、除染の推進に向けた活動として、専門家から除染事例や放射線の健康影響などについて説明し、参加者との対話により疑問に答えていくフォーラムを行った。福島市やいわき市など５ヶ所で開催したが、各市町村で除染計画を作成するなど状況が変化したことから、シンポジウムに統合した。

②シンポジウム

福島の住民の方々にとって関心の高いテーマで、分かりやすく情報を提供することを目的に、国や関係自治体、関係機関と協力し、福島市、いわき市、郡山市においてシンポジウムを開催してきた。開催時の福島の状況に合致したテーマを選び、これまで東京電力福島第一原子力発電所のオンサイトの状況と取り組み、環境修復（除染）、低線量被ばくと健康影響などについて専門家からの説明を基に参加者と意見交換を行った。2017 年 3 月には、福島県産の農産物の現状をテーマに東京都内にて開催した。

③除染情報プラザへの協力

環境省と福島県が協同で運営している「除染情報プラザ」へ、毎土曜日・日曜日に、専門家（学会員）を派遣し、プラザへ訪れる住民の方々への質問対応などを行ってきた。

④JA ふくしま未来とのコラボレーション

福島県産の農産物の販売促進の一助とするために、学会の年会・大会における物産の販売や紹介、学会ホームページから関連サイトへのリンクなどの取り組みを行ってきた。東京都内で開催したシンポジウムでも、農産物を販売した。

⑤自治体への協力

地元市町村が実施している放射線健康相談員制度について、制度構築に関する相談や相談員研修などへの支援を行ってきた。

⑥稲作試験の実施

水田における除染技術実証や稲（玄米）への放射性物質の移行の経年的な推移を確認することを目的に、南相馬市において、地元の農地所有者の協力を得て、2012 年から稲作試験を実施してきた。昨年度の結果は、移行率は最大で 1%程度と非常に小さな値を示している。

3. 今後の取り組み

これまで福島特別プロジェクトが取り組んできた地元の方々に寄り添った活動については、事故後 6 年が経過し、また、昨年度末をもって帰還困難区域を除いて避難指示が解除され、住民の帰還が開始されたことから、福島県や各市町村での取り組み、地元の方々の関心やニーズが変化してきている。これらの状況に合わせ、特にシンポジウムや除染情報プラザの活用については、テーマや集客、実施場所などに関して、また、各市町村への支援については、支援方法や内容について検討する必要がある。これらの課題を中心に、原子力学会（福島特別プロジェクト）としての取り組みについて意見交換を行いたい。

---

*Reiko Nunome, The Support Project for Fukushima of AESJ